



MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第45号

2025年10月

市立三次中央病院だより

花みずき

2025
7/5

「ふれあい看護体験」開催

三次・庄原地域、遠くは府中市、世羅町の高校生45名が参加し、
看護師の仕事や病院の雰囲気を経験



2025
8/31

「中学生☆夏の医療体験 2025」開催

～医療を身近に感じてもらい、将来の進路を考えるきっかけに～

中学生14名が臨床工学技士・看護師・薬剤師の仕事を体験



基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します



院長 立本 直邦
なおいもと ちよくび

本年4月1日に病院長に就任させていただき、早くも5カ月が経過いたしました。まだまだ分からないことも多くございますが、日々、責任の重さと皆さまのご期待をひしひしと感じながら過ごしております。

今年の夏は、昨年にも増して猛暑日が続き、皆さまも大変な日々をお過ごしだったのではないのでしょうか。特にご病気ををお持ちの方々におかれましては、さらにご負担が大きかったこととお察しし、心よりお見舞い申し上げます。

当院のニュースといたしまして、7月末に新病院の基本設計が完了いたしました。病院改築事業の再開が正式に決定するまでの間、公表は差し控えていただきましたが、全国の新病院を積極的に見学し、各部署へのヒアリングも重ね、皆で知恵を出し合って作り上げた設計図は、手前味噌ながらも、どこに出しても恥ずかしくな

い内容に仕上がったと自負しております。

新病院は当初、建設業者の選定・着工を経て、令和11(2029)年春・秋の完成を予定しております。しかし、ご周知のように、物価高騰・人件費の上昇といった建設費の増加や、令和6年度の病院赤字決算など、さまざまな要因が重なり、計画は一時的に凍結を余儀なくされております。

それでも今後、皆さまに安心・安全な医療を継続的に提供し、研鑽を積みみたいと願う若い医師を多く迎え入れ、そして優れた医師にはより長く勤務してもらえ環境を整えるためにも、このまま立ち止まるわけにはいかないと考えております。

さて、皆さまは「直美」という言葉をご存じでしょうか? 「なおみ」ではありません。最近では、「直産」という表現も登場しているようです。

「直美」「直産」とは、初期臨床研修(Ⅱ医師国家試験合格後、2年間の必須研修。当院にも現在7名が在籍しています)を終えた直後に、「美容形成・整形医」や「企業の産業医」として就職するケースを

指す言葉です。

診療科には、内科・外科・産婦人科・小児科など18の基本診療科があり、最近ではテレビなどでも取り上げられている「総合診療科」が19番目の診療科として注目されています。しかし、実際にはそれ以外にも医師としての進路は多様です。

「美容形成・整形医」や「産業医」といった道に早く進むメリットとしては、臨床経験が比較的少なくても、同年代の医師と同等あるいはそれ以上の収入を得ることができ、自分の時間も確保しやすい点が挙げられます。

一方で、新聞報道でもありましたとおり、私のような「消化器外科医」が今後五千人以上不足し、がんの手術を受けられない事態が現実味を帯びてきています。現在では、時間外勤務や急患対応が多い診療科(心臓血管外科・消化器外科・循環器内科・消化器内科・整形外科など)の人氣が軒並み低下しており、「外科は絶滅危惧種」といった言葉も耳にするようになりました。

診療科の選択において「やりがい」だけでは語れなくなっている

現状に、少し寂しさを感じつつも、これも時代の流れなのかもしれない。

ただ、「直美」や「直産」といった傾向が社会全体で進行すると、地方における医師不足や、急性期医療を担う若手医師の減少につながり、医療提供体制の偏在をさらに助長するおそれがあります。「直美」に向かう医師を一概に批判するのではなく、医師の労働環境を改善し、やりがいを持ちながら働ける環境を再構築する仕組みが求められているのではないかと、強く感じております。

少し医療界の話題が中心となつてしまいましたが、ご容赦いただければ幸いです。

来年の診療報酬改定に期待しつつも、自浄努力によって健全な病院運営を図り、当院職員のみならず、地域の皆さまの夢でもある病院建て替えが実現するよう、日々専心精進してまいる所存です。今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(令和7(2025)年8月吉日)

研修医ノート

VOL.29



研修医
さいとう 悠斗
相 坂 悠 斗

令和7年4月より市立三次中央病院に勤務しております初期研修医の相坂悠斗と申します。広島市出身で、産業医科大学を卒業しました。三次には幼少期に遊びに来たことがある程度ですが、三次での生活も数ヶ月が過ぎ、町の方々も大変温かく過ごしやすい町だと感じております。これからの2年間を三次で過ごすことができることを大変嬉しく思っています。

今年は内科、外科、麻酔科、救急科、小児科、産婦人科の順に4〜5週間ごとに各診療科を回り、上級医の先生方やメディカルスタッフの方々から医師として必要な知識や技術のご指導を受けながら検査・処置に参加し、入院患者さんを担当させていただいております。また、月4回ほどの当直では、当直医の先生方と一緒に患者さんの診察などをさせていただき、患者さんと関わり合いながら、医師としての姿勢を日々学んでおります。

これからの研鑽を積み、三次の医療に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

VOL.30



研修医
ゆうた 上野
上 野 佑 太

令和7年4月より市立三次中央病院に初期研修医として赴任しました、上野佑太と申します。出身は鹿児島県で出身大学は広島大学です。

三次には大学在学中に旅行で何度か果物狩りをしに訪れた程度で縁はあまりないですが、いざ住み始めてみると、とても過ごしやすく、朝に散歩などしていると明るく挨拶をくださる方が多くて、温かみを感じている場所だなと感じています。また三次は盆地ということ聞き、噂どおりの夏の暑さを感じるとともに、冬の寒さを想像し、越冬できるかと不安がよぎる今日この頃です。

病院では約1ヵ月単位で様々な診療科を回りながら医師として必要な知識や技術を幅広く学んでいます。指導医の先生方と診断や治療を行っている際に、患者さんから応援の言葉やアドバイスをいただくこともあり、やりがいのある仕事だと改めて実感するとともに、早く自立しようと気が引き締まる思いで日々取り組んでおります。

研修医としては令和9年の3月まで当院で働かせていただく予定です。三次の医療に貢献できるよう日々精進して参りますので、よろしくをお願いいたします。

VOL.31



研修医
まえ 加藤
か とう 真 恵

令和7年4月より市立三次中央病院に初期研修医として入職致しました、加藤真恵と申します。出身は広島市で、出身大学は愛媛大学です。

現在、4月から1ヵ月ごとに異なる診療科を回らせていただいております。右も左も分からない状態でスタートした研修生活でしたが、日々の先生方、コメディカルの皆さん、スタッフの皆さんに支えていただきながら、あつという間に5ヵ月が経ちました。その中で、仕事や勉強への姿勢、患者さんへの対応など、今後の自分にとっての目標となるような素晴らしい方々と出会うことができました。未だにわからないことばかりで、日々の診療の中で反省することも多いですが、一つひとつ丁寧にご指導いただいたおかげで、少しずつできることが増えてきたことを実感しています。また、患者さん一人ひとりと向き合い、その背景や気持ちを理解しながら対応する難しさや大切さを学んでいます。これからも初心を忘れず、謙虚な姿勢で研鑽を積み重ねていきたいと思っております。

研修医としてこれからの2年間、こちらで引き続きお世話になりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

VOL.32



研修医
かすみ 葉
は ば 香 澄

はじめまして。この春から市立三次中央病院で初期研修をさせていただきます。広島大学を卒業し、縁あってこの三次の地で医師としての第一歩を踏み出しました。慣れない環境の中で緊張の連続ではありますが、患者さんのお言葉、指導医の先生方やスタッフの皆さんの温かさに日々支えられながら、少しずつですが医師として成長していることを実感しています。

市立三次中央病院は幅広い症例を経験できる環境が整っており、地域に根ざした医療の大切さを肌で感じることが出来ます。医療の現場で学べることの重みを胸に、これからも一つひとつの経験を大切にしていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。



研修医7名で頑張っています！

連載 がんの治療 36 放射線治療について

放射線治療科 副院長 亀岡 翼

市立三次中央病院放射線治療科の亀岡です。

放射線治療は手術・化学療法と並んでがんの三大治療に位置付けられています。放射線治療が実際にどのような治療なのかはあまりご存じでない方が多いのではないかと思います。今回は放射線治療について基本的な事項をご紹介します。

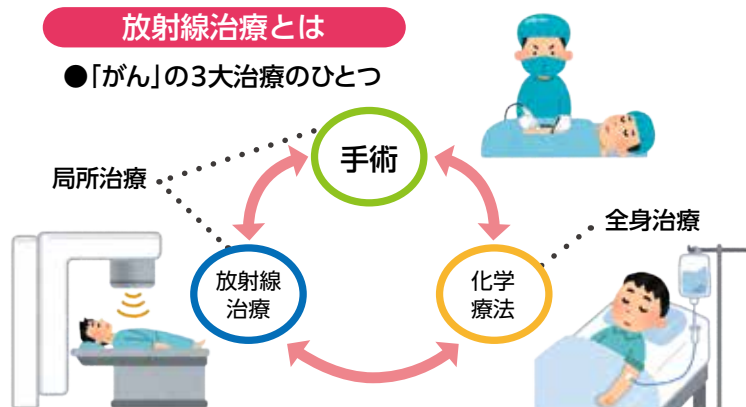
【放射線治療の役割】

がんが診断されると病状や全身状態に応じて、①完治を目指す（根治治療）②完治は難しいので進行を遅らせる③がんによる痛みなどの症状を和らげる（緩和治療）のいずれかの治療方針を検討することになります。放射線治療はそれぞれの治療方針においても実施されることがあります。放射線治療だけで治療することもある場合、手術や抗がん剤治療と組み合わせることもあります。患者さんのご年齢や併存疾患、全身状態によっては手術や抗がん剤治療は適応ではないと判断されることもあります。

ですが、そういった他の治療が難しい患者さんでも放射線治療は安全に施行できることがあります。

放射線治療とは

●「がん」の3大治療のひとつ



【放射線治療が実施されるまで】

まずは主治医の先生から放射線治療科にご紹介をいただき、診察を



受けていただきます。病状によっては、放射線治療は行わずに他の治療を優先したほうがよい場合もあるもので、それぞれの患者さん毎に最適な治療方針を主治医の先生とも相談しつつ検討しています。放射線治療をしたほうがよいと判断したら、治療計画（放射線の当て方の設計図づくり）のために専用のCT検査を受けていただきます、その数日後から放射線治療が始まります。治療は1回10分程度で、患者さんには治療用ベッドに寝てもらい、じっと動かないようにしてもらいます。治療の最中は

熱くも痛くありません。治療の回数はがんの種類や治療の目的で変わります。例えば、緩和治療が目的であれば1回～10回、根治治療の場合は30回～35回程度のことが多いです。放射線治療の副作用については、治療の範囲や回数などで変わりますので、この紙面だけでは説明しきれません。患者さん毎に診察時に詳細に説明していますので、不安なことがあれば、診察時や治療時に遠慮をせずお申し付けください。

【終わりに】

同じがんの患者さんでもどの治療方針を選ぶのかは、それぞれの患者さんの病状だけでなく価値観や人生観によっても異なります。「自分には放射線治療という選択肢はないのか」と気になることがあれば、遠慮をせずまずは主治医の先生に相談をしてみてください。





リウマチについて

リウマチ・膠原病科 佐藤真由

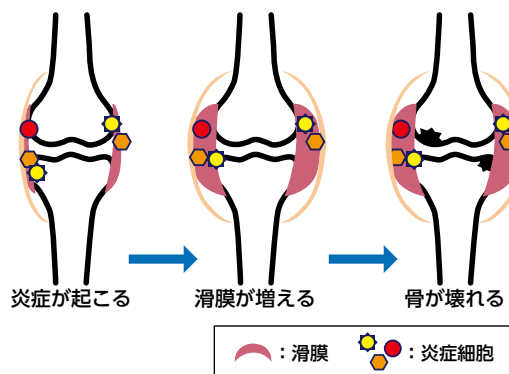
リウマチとは？

温泉にいくと、効能のところに「リュウマチ」とよく書いてありますが、正確には「関節リュウマチ」と言います。関節を動かすときだけではなく、じっとしているときも感じる痛みが数週間以上長く続くことが特徴で、基本的にはひとつの関節だけではなく複数の関節に及びます。頭から足の先まであらゆる関節に起こりますが、手指の第一関節には起こりません。第一関節に痛みがある場合は、変形性関節症など他の疾患を疑います。痛みだけではなく関節の腫れが必ず出現します。

何が起きているの？

細菌やウイルスと戦って感染症から身を守る免疫力が人間には備わっていますが、その免疫力が何らかの拍子で暴走し、自分の関節に向かって攻撃してしまうことで、関節の内側にある滑膜に炎症が起こります。

すると本来は薄い滑膜がもりもり増えてきて関節が腫れます。増えた滑膜を放置しておくと、そこから骨を壊す細胞が出てきて骨を虫食いのように壊していき、最終的には関節変形が起こります。



予防できるの？

免疫力暴走のきっかけとして現在明らかになっているものは歯周病と

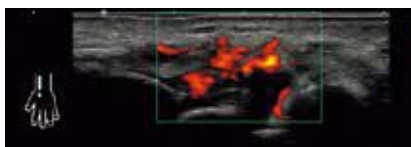
喫煙です。もちろん歯周病と喫煙だけで発症するのではなく、他にもまだ判明していない原因が複数あわさって発症しますが、私たちができることとして、お口ケアと禁煙をおすすめします。

診断・治療について

「リウマチの数値を測ってみましょう」と言われることがあります。具体的にはリウマチ因子、抗CCP抗体というものを指しますが、実はこれらが陰性だからといって関節リュウマチではないと決めるものではなく、反対にこれらが陽性であっても絶対に関節リュウマチだと決めるものでもありません。診断は数値によらず、症状の経過をお聞きし、関節の触診と超音波検査で行います。



◀関節の触診



関節超音波検査
赤く見えるところは炎症を示しています

以前は特效薬がなかったためほとんどの方が関節変形を来していました。日本では1999年以降治療薬が数多く登場し、それらを使って関節の痛みも腫れもない状態を保ち、関節変形を来さないことを目標とした治療が可能となりました。しかし、発症から時間が経ってからの治療開始では薬も効きにくいことが多く、早期に診断し治療開始することが大切です。また、風邪のように一時的に薬を使えば完治するものではなく、薬を定期的に服用することで完治した状態を保ち、一生付き合っていく病気です。一生付き合うからこそ、治療には妥協せず医師と相談しながら自分に合った治療薬を見つけることが大切です。診断・治療については関節リュウマチを数多く診ている医師でなければ難しいことも多いため、まずかかりつけで相談し、専門科へ紹介してもらうことをおすすめします。

最後に

関節リュウマチはなんだか得体の知れない恐ろしい病気と認識されている方も多いと思いますが、少しでもイメージしやすいものとなったでしょうか？じっとしているときにも起こる関節の痛みが長く続く場合には、お気軽にご相談ください。

透析室で災害が起きたら

臨床工学科 高畠衣里
たかはた えり

◇透析に欠かせない

「水」と「電気」

人工透析は腎臓の機能が低下した患者さんのために、血液を綺麗にする治療です。通常は週に2〜3回、1回3〜5時間ほどかけて行います。血液を体の外に出し、透析の機械を使って毒素や余分な水分を取り除き、綺麗になった血液を再び体に戻します。



◇なぜ「水」が必要なの？

この透析治療に欠かせないのが「水」と「電気」です。
透析では血液を綺麗にするた

めに大量の綺麗な水が必要です。

この大量の水を作るには水道水を大きな機械でろ過し、不純物のない綺麗な水にします。透析患者さん1人に対して必要な水の量は、なんと約120〜150

ℓ。これは家庭のお風呂1杯分以上に相当します。そのため、とてもたくさんの水が必要なのです。

◇なぜ「電気」が必要なの？

透析をするには様々な大きな機械を動かす必要があります。透析1回分の電力は、家庭でドライヤーを10台以上同時に使うのと同じぐらいと言われているほどの電力を消費します。

◇「水」や「電気」が止まったらどうなるの？

この場合は、まず透析はできなくなります。透析をすぐに止める必要

緊急時生食返血手順

1. 必要物品を用意(生食 500ml・輸液セット)
2. 生食に輸液セットをつなぎ、ルート内を満たす。クレンジングする。
3. 赤ポートに輸液セットを接続する
4. 血液ポンプをダイヤルで0にする
5. 透析側クランプ
6. 生食クレンジングをあげる
7. 血液ポンプをQB100〜150ml/minにする
8. 目視で生食残 200mlになるまで返血する
9. 血液ポンプをOFFにする
10. 静脈側クランプ
11. 透析側クランプ開放
12. 生食加圧もしくは自然落差で生食 50ml 程度使用し返血
13. 透析側クランプ
14. 針と回路の接続を外す
15. 止血バンド、止血セットを患者に渡し避難させる

☆透析患者の皆様へ☆

緊急避難後は避難場所にて患者様の安否確認透析針の抜去などを行う必要があります。不安、心配はありますが安全確認まで避難場所を離れないようご協力お願いします。

透析室スタッフ一同

があります。体の外に出ている血液を必ず体に戻す必要があります。平時は自動的に血液を戻していますが、「水」または「電気」が止まった場合は水の代わりに別の点滴を使い、機械の緊急時用のバッテリーを動かして手動で血液を戻します。この手動で血液を戻す方法は通常の血液を戻す方法とは異なり、スタッフが手作業で



臨床工学科スタッフ一同

行う緊急的な方法になります。透析を支えているのは私たちの身近にある「水」と「電気」です。それが無くなった時どうするか、透析室では定期的に訓練を行い、いつ何があっても良いようにしっかり準備をしています。患者さんが、安全に透析ができるように透析室スタッフ一同、日々心掛けております。

特定看護師

シリーズ



特定行為
研修修了者
毛利美佐恵
もうり みさえ

2024年度に「特定行為に係る看護師の研修制度」の中で「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の研修を修了しました。毛利美佐恵と申します。「特定看護師」とは、普段の看護に加えて、より専門的な医療のサポートができるよう、厚生労働省が定める研修を受けた看護師のことです。この研修では、体調がすぐれない方や高齢の方が、しっかりと栄養や水分をとれるようにサポートするための知識と技術を学びました。病気のときや治療中は、「なんとなく食欲がない」「水分がうまくとれない」といった状態になることがあります。そうしたときに、特定看護師が医師の指示にそって、点滴や栄養の管理など症状に合わせてタイムリーに行うことができます。普段から患者さんに寄り添い、体や気持ちの小さな変化にも気づきやすいのが、私

たち看護師の強みだと感じています。私はこれまでの看護経験に加えて、特定行為の研修で得た知識や技術を活かしながら、患者さん一人ひとりに合ったケアを行えるように心がけ、「この人に任せてよかった」と思っていただけのように、やさしく、丁寧に関わっていきたいと思っています。また、当院が地域の皆さんにとって身近で、安心できる病院でありたいと願っています。これからも医師や薬剤師、栄養士、リハビリスタッフなど多くの仲間と力を合わせながら、患者さんにとって一番良い方法を考え、行動して参ります。患者さんの「いつもの暮らし」を守るように、特定看護師として、これからも努力を重ねていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



「中学生☆夏の医療体験2025」を開催しました

8月31日(日)、「中学生☆夏の医療体験2025」を開催しました。昨年に続いて2回目となる今回は、中学3年生を対象に、看護師・薬剤師・臨床工学技士の仕事を体験していただきました。

三次市の広報などを通じて案内したところ、14名の生徒さんが参加してくださいました。医療の仕事に関心を持ち、進路を考えるうえでのヒントを得てもらうとともに、将来一人でも多くの医療人が育ってほしい——そんな思いを込めた体験会です。

当日は、ユニフォームに着替えて気持ちもぐっと高まり、それぞれの説明を受けたあとに体験が始まりました。薬剤師コースでは錠剤や粉薬の分包、軟膏の計量といった調剤業務に挑戦し、臨床工学技士コースでは電気メスを使って、鶏肉や高野豆腐を実際に切ってみました。看護師コースでは、生徒さん同士で血圧測定や心音の聴診を体験したり、実際に患者さんの協力を得て、足を洗って温めるケアも体験しました。

体験を終えた生徒さんからは、「薬剤師は憧れの職業です。実際に薬を調剤できてとても良い学びになりました」「ドラマとは違うリアルな様子がとても参考になりました」「将来について考えるきっかけになり、医療の道を目指すには知識だけでなく日々の心掛けが大切だと感じました」といった感想が寄せられました。

三次で育った生徒さんたちが、今回の経験をきっかけに医療への興味をさらに深め、地域を支える医療人を目指してくれることを楽しみにしています。

看護部 山口 恵美





みよしぶどう友の会

ウォーキングデー

参加者募集

みよしぶどう友の会では、『ウォーキングデー』を開催します。ウォーキングで健康づくり、仲間づくり、そして糖尿病などに関する知識を深めてみませんか？
会員でなくても健康に興味・関心のある方、大歓迎です！
ボールの無料貸し出ししております。ぜひ、お気軽にご参加ください!!(要申込)

日時:令和7年11月15日(土) 9時30分~12時00分(雨天決行)

集合場所:市立三次中央病院 リハビリテーション科 運動療法室

内容:ノルディックウォーキング(みよし運動公園)／血糖測定(運動前後) 参加費:300円 申込期限:11月7日(金)



【お申し込み・お問い合わせ】医事課:TEL(0824)65-0101/FAX(0824)65-0159/Email:iji@city.miyoshi.hiroshima.jp

人生の節目にPET検査はいかがでしょう

～いつまでも健康でいたいから～

市立三次中央病院では、がんの早期発見を目的に、病巣部を速やかに診断する「PET画像」と、細やかな位置情報を見つける「CT画像」がひとつになったPET-CTによる検診を行っています。
「PET-CT検診」は短時間で1度に全身のがん検査ができ、診断の精度が向上し、より詳細な病変を検出することが可能です。
ご退職や誕生日・結婚記念日など人生の節目や記念日にPET検診の受診はいかがでしょう。



PET-CT装置



PET-CT撮影画像

検査開始6時間前から絶食となります。受付から終了までの時間は、約3時間30分です。ご希望により、後日、専門医師が検診結果の説明を行います。(要予約)

料金 88,000円(税込)

クレジットカード支払が利用できます。



【お申し込み・お問い合わせ】健診センター TEL(0824)65-0620/FAX(0824)65-0621

お願い

救急診療等の制限について

令和7年 11月9日(日)
8時~15時30分

電気設備の定期点検を行います。この間、一時的に停電するため、外来救急患者さんの診療を制限させていただきます。ご協力をお願いいたします。

市民公開講座 開催のご案内

市民の皆さま等を対象として、がん治療等の普及・啓発を目的に、令和7年度は下記のとおり市民公開講座を開催します。

- 日時:令和7年11月19日(水) 18:30~20:00(18:00開場)
- 場所:三次グランドホテル(三次市十日市南一丁目10番1号)
TEL:0824-63-3111
- 講演:「最新の肺がん外科治療」ほか
- 入場無料。事前の申し込みは必要ありません。
直接会場へお越しください。



【お問い合わせ】医事課 TEL(0824)65-0101/FAX(0824)65-0159

病院ボランティアを募集しています ~あなたの思いやりを患者さんへ~

院内でボランティアとして活動していただける方を募集しています。皆さんの善意の活動をお待ちしています。

《主な活動内容 外来患者さまへの支援》

- ・玄関での車の乗降のお手伝い
- ・診察申込手続きのお手伝い
- ・再来受付機の操作案内
- ・待合でのお手伝い
- ・身体の不自由な方へのお手伝い(車いすの操作等)



《活動時間》月曜日から金曜日(祝日を除く)午前8:30~12:00
上記の内、都合のよい時間※週1回~活動参加していただけます。

○ボランティア活動保険に加入していますので、病院への移動や活動中の事故等が補償されます。

○職員に準じて健診や予防接種を受けることができます。

詳しくは、当院HP「ボランティア募集」をご覧ください。医師課へお問い合わせください。

【お申し込み・お問い合わせ】医事課:TEL(0824)65-0101 Email:iji@city.miyoshi.hiroshima.jp